



ノルウェーの世界選手権に先立ち、お隣のスウェーデンでトレイルOのヨーロッパ選手権が開催されることになり、日本チームは前哨戦として参加し、好成績を収めました。一足先に帰国した松橋がレポートします。

■そろって Bollnas 入り■

開会式前日の3日の朝、ストックホルム駅で集合し、電車でスウェーデン中部の町 Bollnas へ、そこからバスに乗り継いで Alfta に向かい、イベントセンター兼宿舎である AlftaQuren にお昼過ぎに到着しました。

その日は宿舎付近で6月に開催された大会のコースがトレコースとして公開されていたので、早速地図を購入してトレインに入りました。植生が悪くなっていてフラッグが見にくくなっていましたが、スウェーデンの地形の特徴の一端がつかめました。

翌日はモデルイベントです。会場は3日間共通で主催者の車で会場に向かいます。タイムコントロールを1つこなしたあと、800m 12コントロール制限時間1時間のコースです。距離のわりにコントロールが多いのはなぜかといいますと、1つのフラッグ群を2つのコントロールで共有しているからです。Temp0 をふつうのコースでやると考えてください。コースは開けたところに岩が散在するトレインで、細かな地図読み、特徴物の大きさの見極めが必要だと思いました。



宿に帰って夕方は開会式。前日から振ったり止んだりの雨も上がって大会当日は良い天気になりそうです。開会式には地元ボルナスの市長さんも来賓としてあいさつされ、地元シンガー?の



歌も披露されました。開会式は意外とあっさりと終了し、テクニカルミーティングの後、部屋に集まってミーティング。ゼッケンが配られ、明日のスタート順もわかり、いよいよ始まりです。

■いよいよ本番、開けた土地に複雑なコントロール■

翌5日はいよいよ第1日のスタート、前日右へ向かった分岐を左に向かってコースへ。モデルと同じような開けたトレインに複雑な地形と岩が散在していました。フラッグを共有しているコントロールや近接しているフラッグがあって、対象となるフラッグを見定めるのにも神経を使いました。1.4km 20コントロールで102分は、設定が厳しいかと思いましたが、時間はうまく使え、5分ぐらい残してフィニッシュ。スタート分岐から今度は直進してタイムコントロールを2つ。自分としては、精一杯やったつもりでしたが、結果は13点 TC1 個ミスで104.5秒と散々でした。WTOC 代表の二人はさすがでそろって20点19点を確保。全体では満点が3人と意外に少なく、上位選手もTCでミスをしていました。でもパラリンピッククラスでも満点を出す選手がいる点はさすがにスウェーデンだなと思いました。

5人の合計で争う北欧選手権(なぜかクラブチームでもエントリーできる)は私が足を引っ張り13位と出遅れまし

た。1日目の反省として①岩の大きさを見極めて地図と照合する。②細かな置き方はしていないので多方面から見て地形をつかむ。の2点を頭に入れて眠りにつきました。

■パーフェクト Japan ! ■

2日目は、団体戦もあり3名1チームなのでWTOC 代表を中心とした(木村、鈴木、伴)の第1チームと(藤生、小山、松橋)の第2チームでのぞみます。

(成績は上位2人の合計で争う)スタートは前日の成績の下のものからなっています。2日目はTCが最初に2つあり、これまた難しく特に1つ目は全く地形が読めませんでした。でもコースに入ってからTCのことは忘れて集中できました。前日と同じ20コントロールですが1.2kmで96分と時間が更に厳しくなっています。一部日本的な置き方のところもありましたが1日目以上に重複コントロールがあり、最後は5つのフラッグで4問を解くというものでした。私の成績は散々でしたが、ほかの皆さんは地形にもなれ、得点をのばしました。鈴木さんが手ごたえを感じさせてフィニッシュ。速報で満点が出ました。つづく木村さん、伴君も見事満点を獲得。第1チームは全員が満点という見事な成績でした。伴君は2日ともTCの成績が良く、個人でも見事5位に入りました。

この日は満点が10人以上あり、上位

の選手が作戦を変え、TCに時間をかけたことがうかがえます。スウェーデン、ノルウェーチームも2人ずつ満点を出しましたが、チームが分かれていたため、団体戦は日本だけが満点の44点でトップになりました。

(ちなみに北欧選手権は10位でした。)

夜はバスセンター近くの学校で表彰式、閉会式とバンケットが催されました。

日本は欧州外ということで正式なヨーロッパ選手権の表彰はありませんでしたが、チームでトップの成績をとったことで特別表彰されました。

個人的には、課題がしっかり残った大会でしたが、日本チームは、ヨーロッパでも戦えるという証を残しました。続くノルウェーでの世界選手権での活躍を期待しつつ帰途に着きました。

(松橋徳敏)

Paralympic Class

1	Ola Jansson	SWE	43p	99p
2	Michael Johansson	SWE	42p	176s
3	Pekka Seppa	FIN	42p	268s
51	Nagamitu Mori	JPN	22p	243s

チーム成績

1	Japan1	44p	105.5s
	(伴、木村、鈴木)		
2	Sweden2	43p	57.5s
3	Sweden1	41p	72s
23	Japan2	31p	175s
	(藤生、小山、松橋)		

北欧選手権

1	Finland1	210p	1134s
2	Sweden1	209p	759s
3	Sweden2	208p	775.5s
10	Japan	185p	883s
	(伴、木村、鈴木、藤生、松橋)		

成績

1日目

Open Class

1	Lauri Kontkanen	FIN	22P	90s
2	Hannu Niemi	FIN	22p	95s
3	Marit Wiksell	SWE	21p	32s
14	Tsuyoshi Ban	JPN	20p	18.5s
15	Haruo Kimura	JPN	20p	57s
34	Norihiro Suzuki	JPN	19p	105.5s
55	Takashi Fujii	JPN	17p	105s
70	Taro Koyama	JPN	15p	183.5s
73	N. Matsuhashi	JPN	13p	104.5s

Paralympic Class

1	Ola Jansson	SWE	22p	51p
2	Christian Gieseler	GER	21p	66s
3	Michael Johansson	SWE	21p	103s
53	Nagamitu Mori	JPN	11p	76s

2日目

Open Class

1	Geir Myhr Oien	NOR	22P	27.5s
2	Tsuyoshi Ban	JPN	22p	28s
3	Marin Jullum	NOR	22p	39s
8	Norihiro Suzuki	JPN	22p	72.5s
9	Haruo Kimura	JPN	22p	80s
41	Takashi Fujii	JPN	19p	111s
75	Taro Koyama	JPN	12p	64s
79	N. Matsuhashi	JPN	11p	201s

Paralympic Class

1	Ivica Bertol	CRO	22p	66s
2	Pekka Seppa	FIN	22p	105s
3	Ola Jansson	SWE	21p	48s
53	Nagamitu Mori	JPN	11p	167s

総合成績

Open Class

1	Hannu Niemi	FIN	44p	200s
2	Marit Wiksell	SWE	43p	75.5s
3	Clive Allen	GBR	43p	132s
5	Tsuyoshi Ban	JPN	42p	46.5s
8	Haruo Kimura	JPN	42p	137s
16	Norihiro Suzuki	JPN	41p	178s
46	Takashi Fujii	JPN	36p	216s
74	Taro Koyama	JPN	27p	247.5s
76	N. Matsuhashi	JPN	24p	305.5s